

茨城南

IBARAKI
mito@mainichi.co.jpポーズを取る、祭ヒーロー「舞神双風龍」
つくば市役所で

(手前右の2人)ら出演メンバー



つくばをさらに元気に

「つくばをさらに元気にしよう」と、筑波大の学生を中心に、よさこいソーランの踊り手や熟年バンドなど多様な市民グループが連携し、つくば市で3月13日、参加型の新しい祭りを開催することになった。出演は現在13団体だが、主催の実行委員会は幅広く呼びかけており、運営スタッフも募集中だ。

【安味伸一】

祭りは「TSUKUBA 筑波大の学生サークル・同好会からは、みち、同市中央公園を主会場に開く。よさこい踊りや太鼓演奏、学生手作りのみこし担ぎなどを来場者と一緒に楽しむ。実行委員長の筑波大大学院生、守屋俊甫さん(24)は「全国からつくばに来てくれる学生が地域とつながって触れ合い、地域を元気にしたい」と話す。実行委は昨年12月に発足し、地域と一緒に準備に取り組む。

筑波大の学生サークル・同好会からは、みこし担ぎの「筑波桐睡会」▽和太鼓の「きめき太鼓塾」▽「筑波花火研究会」▽大道芸「ジャグリングサークルSheep」▽よさこい「斬桐舞」▽社会人も加わる「天久保オールスターズバンド」が参加する。

学生の動きに触発され、熟年世代のハワイアンバンド「森ハワイアンズ」やよさこい5グループのほか、各

3月に「新まつり」

筑波大生発案 市民グループが連携

種イベントで活躍する2人組の祭ヒーロー「舞神双風龍(ぶじんソーランドラゴン)」が参上、ショーを演じる。

筑波桐睡会会長の大学院1年、藤原宣也さん(29)は「横浜でみこし職人だった祖父から作り方を盗んで仲間と制作した。みこし文化を伝えていきたい」と意気込む。森ハワイアンズでマラカス(パーカッション)を振る、佐藤喜八郎さん(76)は「学生の心意気を感じた。応援して役に立ちたい」と張り切る。

祭りは午前11時〜午後7時まで。連絡先は守屋さん(080・55996・9558)。